

4. 上下水道事業の取り組み

① 水道事業 〈保呂羽浄水場再構築事業の進捗状況について〉

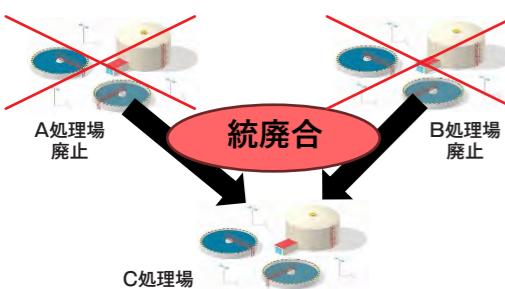
登米町にある保呂羽浄水場を、社会環境に適した浄水機能、維持管理機能、施設機能を有した浄水場へレベルアップしております。



〈保呂羽浄水場再構築事業計画概要〉

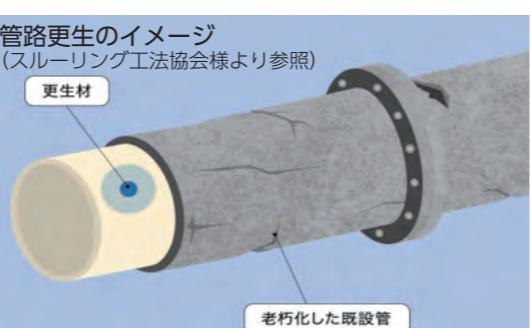
業務名	工 期	R5 4 3	R6 8 12	R7 3 4 5 6 7	R8 8 9 10 11	R9 1 2 3	R10 4 3	R11 4 3
設計及び建設工事	R5.4.1～ R12.3.31							
保全管理業務	通水開始～ R31.1.31							

② 下水道事業 〈効率的な経営戦略について〉



支出の大部分を占める施設維持管理費削減に向け、施設統廃合を進め効率的な経営を目指します。

老朽管の管路更生を行うなど、不明水対策を進め、不要な汚水処理を減らすことにより、経費軽減を図ります。



老朽化した下水道管内に、樹脂を含んだ管状の布からなる材料を挿入し、管を開かずに修繕する技術などにより、管路の改築を行っております。

5. お知らせコーナー

有機フッ素化合物PFAS(ピーファス)について

市内へお届けする水道水におけるPFOS(ピーフオス)及びPFOA(ピーフォア)の有無について、定期的な水質検査を実施しております。

これまでにPFOS・PFOAが検出されたことはありませんので、安心して水道水をご利用ください。



漏水などを発見した際のお問い合わせについて

漏水などを発見した場合や、蛇口から急に水が出なくなった場合などお困りの際は、上下水道部水道施設課(0220-52-3312)へご連絡ください。



【問い合わせ先】 登米市上下水道部 経営総務課 TEL 0220(52)3313
(令和7年11月20日発行) Mail:suidosomu@city.tome.miyagi.jp
ホームページ ▶https://tome-suido.com



令和6年度 登米市水道事業会計・下水道事業会計 決算概要と経営状況

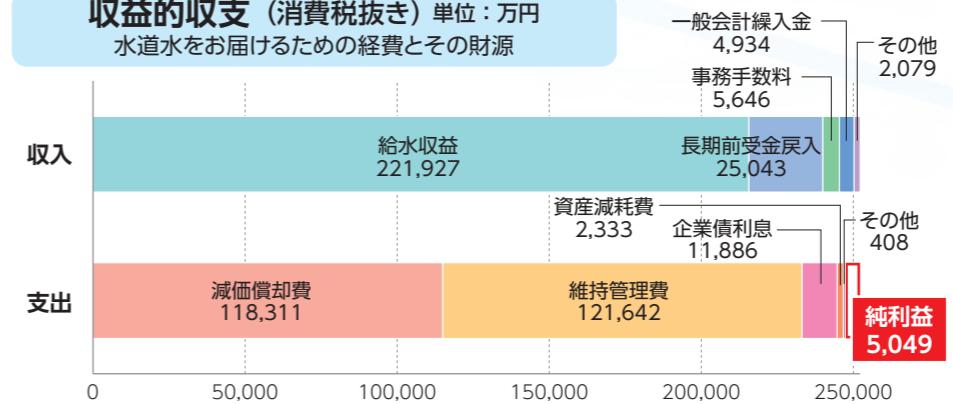


上下水道事業は、運営に必要な費用の多くをお客様からいただいた水道料金収入・下水道使用料(以下「料金等収入」という)でまかなっています。このような経営の原則を「独立採算制」と言います。

令和7年度9月定期議会において、令和6年度水道事業会計及び下水道事業会計決算が認定されましたのでお知らせいたします。

1. 水道事業の決算報告

収益的収支 (消費税抜き) 単位:万円 水道水をお届けるための経費とその財源

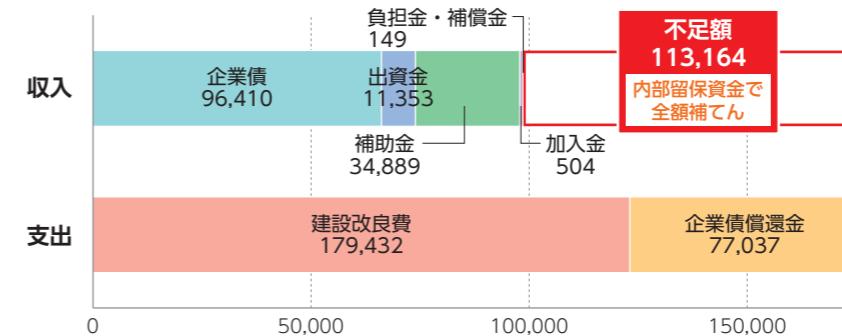


収入の約86%を占める給水収益(水道料金)は、R5からの料金改定により前年度から9,699万円増加しました。

支出は、物価高騰などに伴う維持管理費の増大により、前年度から1億2,741万円増加し、当年度の純利益(黒字)は5,049万円となりました。

今後とも、必要経費の縮減と見直しを図り、適正な運営に向け取り組んで参ります。

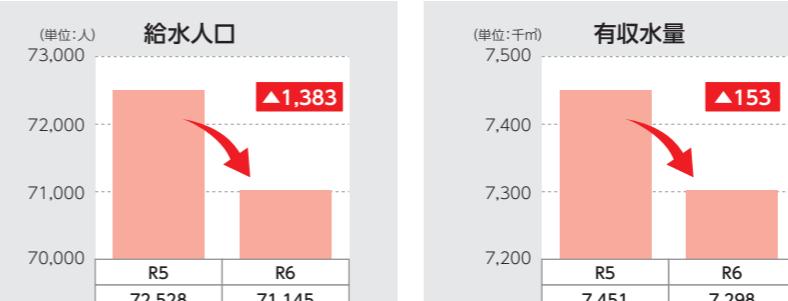
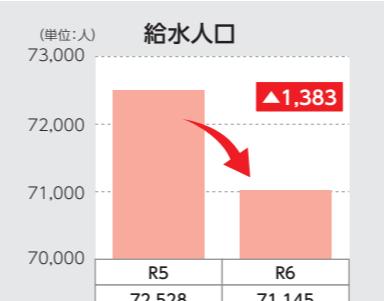
資本的収支 (消費税込み) 単位:万円 水道施設を整備するための経費とその財源



企業債(国からの借金)の借入や補助金等の収入は14億3,305万円となり、工事費や過去の企業債返済等に要した支出は、25億6,469万円となりました。

収入と支出の差額11億3,164万円は、内部留保資金で全額補てんしました。

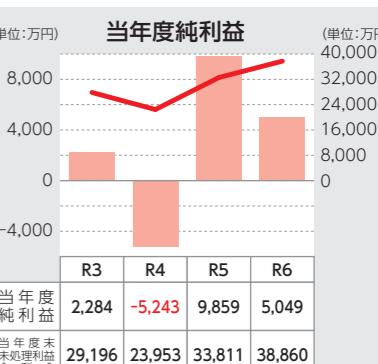
水道事業の事業推移



給水収益の増減にも直結する給水人口は、前年度から1,383人減少し、今後ともより効率的な事業を行なう必要があります。

管路の老朽化等による漏水増加により、15万3千m³減少しています。

引き続き有収水量向上を図る事業を進めてまいります。



昨年度に統じて給水収益が増加し、5,049万円の純利益が発生しました。

当年度末未処分利益余金は3億8,860万円となりましたが、令和7年度の予定損益を見込み、未処分としました。

用語解説 ①

有収水量…配水管に送り出された水量のうち、メーターで計量され水道料金として収入に結びついた水量のこと。

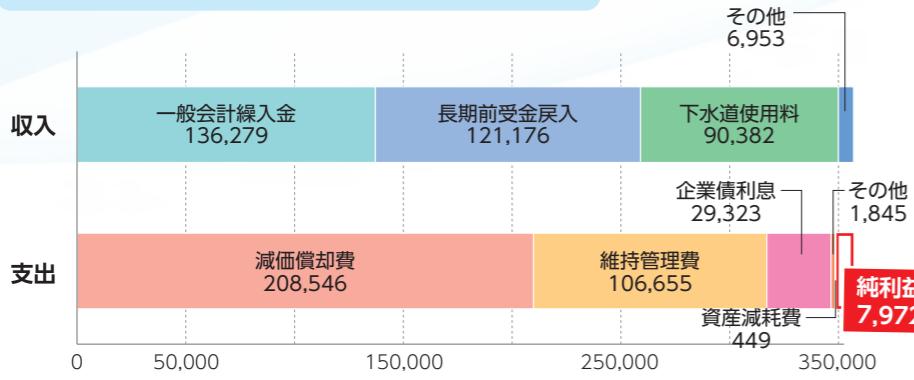
当年度末未処分利益余金…企業の純利益から配当や積立金などのうち、まだ処分されていない部分を指し、事業会計の財務基盤の安定化や、将来の設備投資の資金源となります。



2. 下水道事業の決算概要

収益的収支 (消費税抜き) 単位: 万円

生活排水・雨水を処理するための経費とその財源

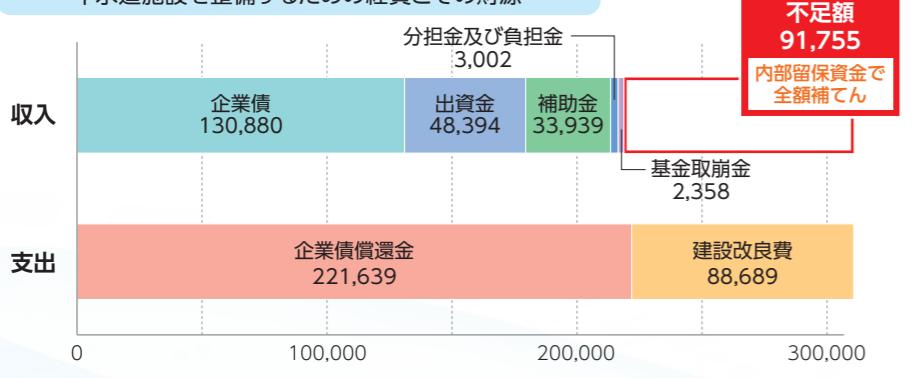


下水道使用料は前年度から1億1,683万円増加しましたが、総収益の約25%に留まり、一般会計からの多額の繰入により費用を賄っている状況にあります。また、減価償却費は減少したものの、維持管理費は前年度より3,682万円増加し、当年度の純利益（黒字）は7,972万円となりました。

今後とも施設統廃合の協議を進めるなど、適正な資産管理に取り組んで参ります。

資本的収支 (消費税込み) 単位: 万円

下水道施設を整備するための経費とその財源

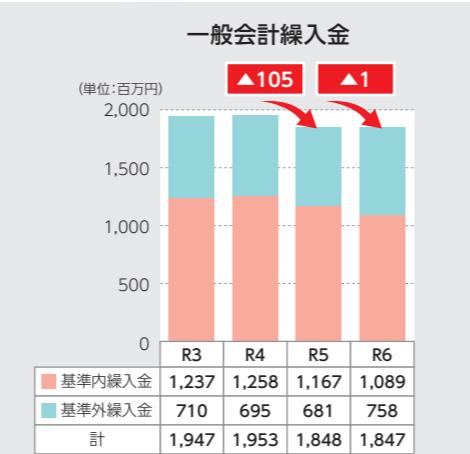
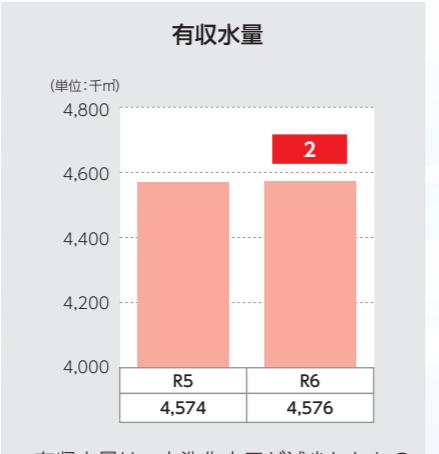
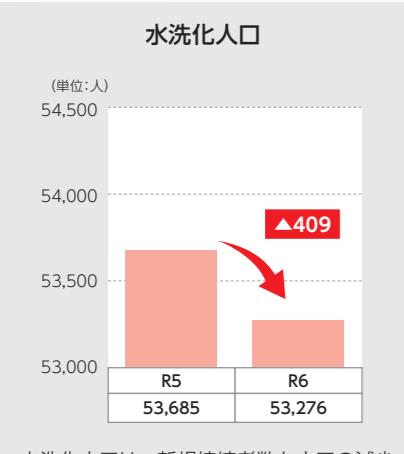


企業債の借入や補助金等の収入は13億880万円となり、工事等に要した総支出は、前年度から4,807万円増加し、31億328万円となりました。

汚水管渠や迫町佐沼大東地区の雨水排水路整備、処理場の更新等の整備は、企業債を主な財源としていることから、その償還金が支出の71%を占めています。

収入と支出の差額9億1,755万円は、内部留保資金で全額補てんしました。

下水道事業の事業推移



用語解説

② 一般会計繰入金とは?

法律などに基づき、一般会計から公営企業会計へ繰り入れられるお金のこと。国が定めた基準内で繰り入れるお金を基準内繰入金と言います。

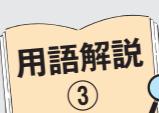
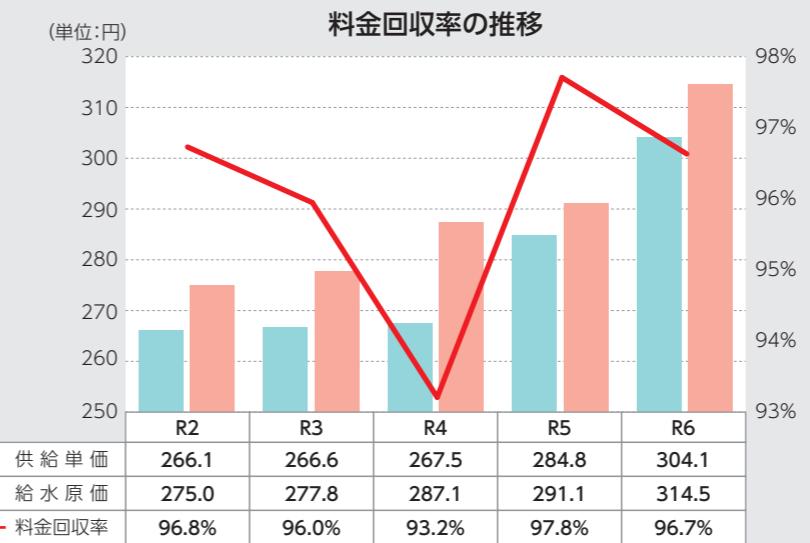


3. 経営状況

市上下水道部では、人口減少等により料金収入等が減少する中、将来にわたる持続的な上下水道の実現に向け、令和5年9月に水道料金・下水道使用料改定（以下「料金等改定」という。）を行いました。

ここでは、料金等改定を行った結果、上下水道事業の経営状況はどう変化したのか、報告いたします。

① 水道料金改定による経営状況



料金回収率とは?

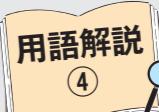
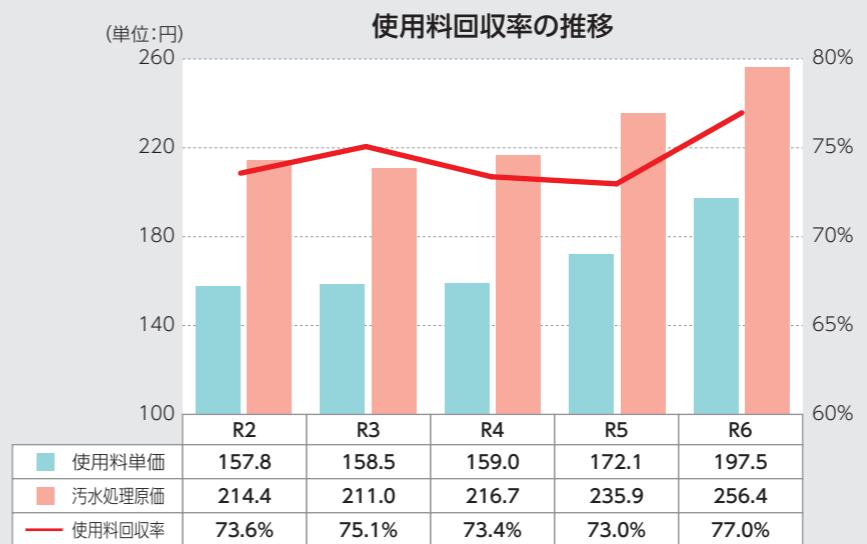
給水に要する経費が給水収益（水道料金）でどの程度賄われているかを見る指標で、100%を超えることが望ましいとされています。

料金回収率 = 供給単価 / 給水原価

供給単価 … 利用者の方からいただいた給水収益1m³当たりの単価

給水原価 … 水道水1m³をお届けするのにかかった経費

② 下水道使用料改定による経営状況



使用料回収率とは?

汚水処理に要する経費が下水道使用料でどの程度賄われているかを見る指標で、100%を超えることが望ましいとされています。

使用料回収率 = 使用料単価 / 汚水処理原価

使用料単価 … 利用者の方からいただいた下水道使用料1m³当たりの単価

汚水処理原価 … 汚水を1m³処理するのにかかった経費

使用料の改定により、使用料回収率は前年度から4.0ポイント上昇しました。しかし、昨今の物価高騰などにより、汚水処理に係る費用が大きく増加している状況です。

また、事業に必要な経費を使用料収入で賄えておらず、使用料単価、汚水処理原価は今後も増加が見込まれるため、今後も施設の統廃合などによる維持管理経費の縮減と、適切な使用料の見直し等が必要不可欠となっております。